

NEWS RELEASE

2014年11月12日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2014年9月中間期 決算概要

【2014年9月中間期の事業環境全般の概況と業績】

国内の油圧ショベル市場は、前年の駆け込み需要の影響から当初は大幅な反動減も予想されていましたが、旺盛な国内需要に支えられ、当初の想定よりは軽微にとどまりました。その結果、油圧ショベルの国内上期総需要は、前年同期と比べ重機ショベルで1割強減少しました。一方、排ガス規制の反動減の影響がないミニショベルは1割強増加しました。

海外の建設機械市場（海外事業の上期対象時期は1-6月）は、欧米など先進国地域を除き、新興国は総じて低調に推移しました。

世界最大の油圧ショベル市場である中国は、昨年後半の回復傾向が継続するのではとの期待に反し春節以降、低迷しました。鉱山地域の需要は明るい兆しが見えず、住宅投機の抑制、大型公共工事の停滞などで全般的に低迷しました。その結果、ショベル需要は前年同期比で、重機ショベルで1割強減少、ミニショベルは微減となりました。ミニショベルを合わせた全体の総需要は前年同期比1割減となりました。

中国以外の市場を見てみますと、北米、欧州、豪州など先進国市場が堅調に推移しました。北米市場は重機ショベルで1割強、ミニショベルは2割弱それぞれ増加しました。昨年の金融危機から順調に回復傾向を辿った欧州は重機ショベルで2割弱、ミニショベルは2割強増加しました。東南アジアとインドは、鉱山開発の低迷など資源分野での落ち込みが大きく、また政治的混乱などもあり、油圧ショベル需要も低迷しました。その結果、重機ショベル需要は、東南アジアは前年同期比で2割弱、インドは前年同期比で1割強減少しました。世界全体の総需要は、前年同期比で重機ショベルが微減し、ミニショベルは1割強増加しました。

コベルコ建機グループは、2013年度からスタートした中期経営計画の中間年を迎え、事業の持続的かつ安定的な成長を目指しグループ一丸となって基本戦略を着々と推進しています。

重機ショベルを生産している五日市工場は、一昨年5月に稼働を開始して以来、順調に生産を軌道に乗せ現在では生産能力を上回る高水準でフル生産を続けています。ミニショベルを生産している大垣工場も旺盛な需要に支えられフル生産が続いています。中国や新興国では厳しい市場環境が続いていますが、先進諸国を中心とした需要の増加に対して、品揃え強化と顧客ニーズにタイムリーに 대응する供給体制の確立に取り組んでまいります。

事業別の状況は次頁以降に詳細を記載いたしますが、これらの結果、2014年9月中間期（2014年4月～2014年9月）の業績は、以下の通りとなりました。

<2014年9月中間期の実績>

{単位：百万円、（ ）内は前年同期比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2014年9月中間期	169,712 (+4.1%)	18,920 (+46.3%)	16,163 (+59.0%)	11,873 (+87.3%)
	2013年9月中間期	162,997	12,933	10,164	6,338

(小数点以下切捨)

連結の売上高は、国内事業が580億円（前年同期比▲10.4%）、海外事業が1,117億円（同+13.7%）で、全体としては1,697億円（同+4.1%）となりました。連結売上高の海外比率は、65.8%となり、前年同期（60.2%）より増加しました。

【2014年9月中間期の事業別状況】

■ 国内事業

国内では昨年の駆け込み需要の反動減があり前年比減少しました。レンタル業界向けの更新需要が一巡し、国内の重機総需要は前年比減少したものの、公共投資、民間設備投資、自然災害対応など工事を伴う実需が下支えとなって比較的堅調に推移しました。駆け込み需要の影響を受けなかったミニショベルは堅調に推移しました。また東京オリンピックに連動するように、大都市圏で都市のリノベーションの動きが出てきており、ビル解体需要が高まってきています。

当社では国内の想定以上の高水準の需要に対応すべく、重機ショベルの五日市工場とミニショベルの大垣工場でフル生産体制で需要の拡大に対応しました。また今後高まっていく解体工事向け大型ショベルの生産能力の拡充にむけ、大型建機の設備能力増強に着手致しました。これらの結果、国内での販売台数は、前年同期と比べ重機ショベルで2割弱減少しましたが、ミニショベルは前年同期比1割増加しました。今後も、国内は重要な市場と位置づけ、顧客ニーズにタイムリーにお応え出来るような体制を整えていく予定です。

グループ全体の生産および開発の最適化を狙ったグローバルエンジニアリングセンター（以下：GEC）も本格的な活動を展開しています。国内生産現場での徹底した生産性向上活動と、原価低減（VE）活動を推進しながらコスト競争力を強化しています。同時に、トータルリードタイムの縮減に取り組み、納期短縮の実現に注力しています。また開発面ではミニショベル2.8～4.5トン級後方超旋回モデルを刷新し最大36%の低燃費を実現すると共に、重機ショベルで好評のコベルコ独自技術「iNDR（エンジン冷却システム）」を全機種に搭載し、より一層低騒音性能とメンテナンス性を向上させました。これからも差別化技術を追及してまいります。

■ 欧米事業

昨年10年ぶりに再進出した米州地域と欧州地域では、順調に販売網の構築が進展しました。北米現地法人KCMU（Kobelco Construction Machinery U.S.A. Inc.）では、9月末の段階で60社を超える代理店と契約を結び、北米市場に関してはアラスカなどの一部を除きほぼ全域をカバーし、南米地域にも販売網を拡充しています。また欧州地域についても販売網の構築が順調に進み、9月末の段階で昨年同期比6割増の26社と代理店契約を結び順調に販売網を拡大しています。米州、欧州地域とも低燃費のコベルコブランドに対する期待感が根強く、順調に販売台数を伸ばしており昨年通期実績と比較すると、本年は米州で2.5倍、欧州では3.5倍となる見込みです。通年のシェアも北米で5%、欧州で3.5%程度を見込んでおり、中期経営計画の実現に向け順調に販売が進展しています。

■ 中国事業

中国は、最大需要期である春節明けを挟む1～3月の総需要は期待感を感じさせる水準でしたが、4月以降前年割れが続く厳しい市場環境となりました。東北部の鉱山需要向けが冷え込んでいる他、各地の公共事業が認可されても執行が遅れるなど全般的に低調に推移しました。コベルコ建機グループでは厳しい市場動向が続く中、きめ細かなサービスなどを継続しつつ、安易な価格政策とは一定の距離を置き、都市部の生活工事を中心としたミニショベルに注力するなど慎重な事業活動を展開いたしました。結果、今上期（1～6月）の販売台数は、前年同期と比べ重機ショベルで微増、ミニショベルは4割増となり、重機、ミニを合わせた中国の今上期の総販売台数は、前年同期比1割弱増加しました。

しかしながら、春節以降、現在に至るまで足下の状況は前年同期比減少の傾向が続いており、需要の低迷が反転する兆しが見えない厳しい状況となっています。

■ APAC地域他 海外事業

APACエリアは全体的に低調に推移しました。インドやインドネシアでの政権交代、タイでの政変などに加え、米国の金融緩和縮小に伴う通貨下落による経済低迷が根底にあり、建設機械市場も厳しい環境が続きました。その結果、今上期（1～6月）の東南アジア全体の重機ショベルの総需要は、前年同期比で2割弱減少し、当社の販売は3割弱減少しました。インドは、総需要が1割強減少しましたが、高性能機であるハイエンド市場は底堅く、当社の販売は微減に踏みとどまりました。

足下、インドを含むアジア圏の経済基盤は不安定感を増しており、世界の投資マネーがどう動いていくか極めて不透明な状況で、更にもう一段のリセッションも予想され、予断を許さない状況になってきています。

【今後の重点課題と2014年度の見通し】

日本の市場は、国土強靱化計画や東京オリンピック投資への期待感もあり好調に推移すると想定していますが、世界全体の経済状況を俯瞰すると、比較的順調な先進国地域に対して、中国や新興国諸国に不透明感が続いています。先進国地域も右肩上がりに回復傾向を辿っているわけではなく世界全体の本格的な景気回復には今しばらく時間を要するものと思われます。全世界的に不透明な状況の中、当社グループを取り巻く市場環境の先行きに関しては、楽観できない状況と考えています。

これらの厳しい視点にたち、コベルコ建機グループでは、経営体質の強化に取り組んでいくことが課題となります。昨年からスタートした中期経営計画、①いかなる事業環境の変化にも追随できる強靱な事業体をつくる ②欧米への事業再参入を遂行し全世界でコベルコブランド価値を最大化させる ③生産性向上、低燃費などの差別化技術の深堀、部品事業拡大など、事業基盤の強化を進める これら中期経営計画で掲げたそれぞれの方針を着実に実行し、体質強化の成果をあげることに、更には海外の拠点にもその成果を広めていくことにより、グループ全体を底上げしていくことが具体的な課題となります。これらの課題に取り組みながら、来るべき将来の上昇局面に備えていく考えです。

これらの状況を踏まえ、2014年通期の見通しは以下の通りと想定しています。

<2014年度通期の見通し>

{単位：百万円、()内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期連結見通し	325,000 (+2.1%)	30,000 (+22.1%)	22,000 (+45.5%)	17,000 (+8.3%)
前期連結実績	318,217	24,561	15,119	15,699

(2014年度下期における為替レート前提： 1米ドル=103円、1ユーロ=140円)

*上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上

平成27年3月期 第2四半期決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL: 03(5789)2111
代表者	代表取締役社長	藤岡 純
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 企画管理部長	三木 健
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率: 96%)	
	神鋼商事株式会社 (当社株式の保有比率: 4%)	

1. 平成27年3月期の第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	169,712	4.1	18,920	46.3	16,163	59.0	11,873	87.3
26年3月期第2四半期	162,997	8.4	12,933	51.9	10,164	80.9	6,338	302.6

	1株当たり四半期純利益
	円 銭
27年3月期第2四半期	37 10
26年3月期第2四半期	19 80

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	426,465	114,025	19.8
26年3月期	443,124	104,039	16.9

2. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
連結(通期)	325,000	2.1	30,000	22.1	22,000	45.5	17,000	8.3

*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。
 実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。